

相良知安

さがら ちあん

捨て身の提案で大逆転。我が国へのドイツ医学導入の功績者。

立身より医学発展にかけた人生

藩医相良柳庵の三男として佐賀城下八戸に生まれる。相良家は代々佐賀藩医の家系で、世襲制が当たり前だった当時、彼も医者を目指す事になる。16歳で藩校弘道館に入学、19歳で洋学を学ぶ蘭学寮に進み、21歳で創設されたばかりの医学校に入学。また千葉の「佐倉順天堂塾」で医学を学び、長崎の「長崎養生所」ではオランダ医師のボードインに師事。その優秀さがオランダへの留学を勧められるも断っている。

明治になると藩主鍋島直正の侍医として上京。新生日本の医学校創設を任される。当時の明治政府内ではイギリス医学を日本の規範に決めていた。しかし相良は、長崎にて収集した異人たちの情報を基に、ドイツ医学こそ世界最高水準と明治の元勳たちの前でもひるまず堂々と主張。99%決まっていた当時の方針を最終局面で覆した。

明治5年には第一大学区医学校(現東京大学医学部)の初代校長となり、さらに「医制略則」を起草。今日まで続く医学制度の基礎となっている。

しかしドイツ医学導入の件で一部藩閥の恨みを買ったせいか、後は重要なポストに就くこともなく、50歳の時には全ての官職を退く。

晩年は易者として、長屋で不遇の時代を過ごし、71歳でひっそりとその生涯を閉じることとなる。

【概略年表】

西暦	和暦	年齢	出来事
1836	天保7年	1	2月16日、佐賀城下八戸に生まれる
1851	嘉永4年	16	藩校弘道館に入学する
1854	安政元年	19	蘭学寮入寮
1861	文久元年	26	江戸及び下総(千葉県)の佐倉「順天堂塾」で蘭学を学ぶ
1863	文久3年	28	長崎にてボードインに学ぶ
1865	慶応元年	30	長崎養生所を精得館と改め、館長となる/致遠館に入校
1867	慶応3年	32	好生館教導方差次となる
1869	明治2年	34	新政府の医学校取調御用掛仰付けられ、ドイツ医学導入決定
1872	明治5年	37	東校を第一大学区医学校と改め、校長となる
1873	明治6年	38	文部省医務局長兼築造局長となる
1874	明治7年	39	相良の草稿を基にした「医制76ヶ条」を長と専音が公布
1875	明治8年	40	本官を免ぜられる
1885	明治18年	50	7月、文部省御用掛仰付けられる/12月、非職仰付けられる
1900	明治33年	65	勳五等に叙せられ、雙光旭日章を授けられる
1906	明治39年	71	6月12日、死去

あなたにとって相良知安とは？

信じるものを守り
通した信念の人

佐賀市立春日北小学校事務長/子孫
相良隆弘さん



相良知安は私の5代前の先祖にあたります。頑固一徹で、周囲との協調性には欠けた部分もありますが、その性格が日本医学界の発展に大きく寄与したとも言えます。当時の日本はイギリス医学の導入が既に決まっていた頃、敵を作る事をいとわずドイツ医学の優秀性を説き、その導入にこぎ着けましたが、当の本人は失脚させられてしまいます。しかし自分の信じるものに決して妥協しなかった強い信念と潔さ、そして家族への愛情の深さには誇りを感じています。

相良知安を知る入門の一冊

「日本医家伝」(文庫本)

江戸から明治にかけて、日本の近代医学に大きく貢献した12人の伝記をまとめた本。相良はその一人で、ドイツ医学導入への経緯などが30ページに渡り詳しく語られている。吉村昭 著/講談社 刊/660円(税込)



《人物像》

- 自分に妥協を許さぬストイックさ
- 自らの功名心より医学の発展
- 妻子への深い愛情

Sagara Chian



▲長崎にてボードインと相良知安ら門下生。中央で腕組みしているのが相良(相良知安所載)

グズグズしてられない世界まであと何年？

28歳の相良が長崎で医学の勉強中の時の事。蘭医ボードインが「日本の医学は何年経てば、欧州諸国に追いつけるか」と生徒たちに質問。他の生徒たちが「100年かかる」「いや80年」などと答える中、相良だけは「14~5年後には追いつくでしょう。いや追いつかねばなりません」と熱弁。相良の医学にける情熱はこの頃既に燃えだぎっていた。

佐賀と東京、二人の妻 その二人が出会った時

相良は故郷佐賀に妻の多美と子供を残し上京し、以後37年間の東京生活。東京では定と言う女性と暮らしていた。いわゆる「権妻」。後年、相良が亡くなると、正妻タミは上京し、権妻の定と対面。正に修羅場...とはならず、定は天皇陛下より相良へ授けられたお金と遺骨を多美へ手渡し、多美は苦勞しながら相良を支えた定の手を握り、いつまでも二人で涙したという。



▲正妻のタミ(相良隆弘氏蔵)

人は見かけによらない 貧乏長屋のあの人が？!

「医者」を捨て、易者として貧乏生活を続けていた相良に届いた吉報。近代医学制度創設に貢献した知安へ、勳五等双光旭日章が授与されたのだ。しかし貧乏で礼服も無い相良は、親友の石黒忠應博士に代理を頼む事に。また亡くなった際には天皇陛下からの祭料が使者によって届けられた。同じ貧乏長屋の住人たちは、まさかそんなに偉い先生だったとは、さぞ驚いたことだろう。



▲相良に授けられた勳五等双光旭日章(相良隆弘氏蔵)

幼なじみで似た者同士 江藤と相良の数奇な運命

相良と江藤新平は同じ八戸村の出身で子供の頃、共に遊んだ竹馬の友だった。この二人は、一度決めたら突き進む突破力や相手を論破する時の容赦のなさなどが似ている。それぞれ医学と司法の面で国の基盤を作り上げる偉大な功績をあげるが、わずかに数年で離職せざるを得なかったことも共通している。

相良知安足跡探訪コース【約2時間】(移動約75分+観光散策約45分)

モデルコース 相良が半生を過ごし、戻る事のなかった佐賀での軌跡をたどる

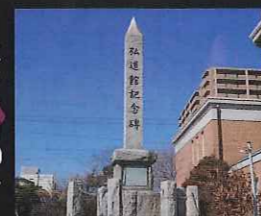


相良知安生誕地

地図▶P35 E-8

長崎街道沿いで、現在はアパートの駐車場。小さい頃、江藤と一緒遊んだ龍雲寺も近く、幼い二人はどんな姿だったのだろう。

① 佐賀市八戸1-4-19 ② 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110



弘道館跡

地図▶P35 G-8

相良や江藤と共に学んだ佐賀藩の藩校。明治政府で活躍した多くの偉人を輩出し、近代日本成立に大きな役割を果たした。

③ 佐賀市松原2-5-22(徴古館横) ④ 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110



佐賀県立図書館

地図▶P35 G-8

相良直筆の「医制略則」等、関連資料や文書などを多数保存。事前連絡すれば閲覧も可能で、本物の持つ息吹を感じられる。

⑤ 佐賀市城内2-1-41 ⑥ 9:00~20:00(毎月最終水曜日、年末年始閉館) ☎0952-24-2900



水ヶ江の屋敷跡

地図▶P35 H-8

結婚した相良が妻子と共に暮らしたのは、大隈生家の西隣。妻子を残し上京した知安がこの家に再び戻ることはなかった。

⑦ 佐賀市水ヶ江2-11-8 ⑧ 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110



城雲院

地図▶P35 G-7

佐賀銀行本店南の小路を東に入るとある。境内にひっそりと建つ相良の墓に手を合わせ、その熱い生涯に思いを馳せよう。

⑨ 佐賀市唐人2-7-5 ⑩ ☎0952-26-7218

? 相良が邁進したドイツ医学とは

相良がドイツ医学を推奨した理由として、当時日本に多かったオランダ医学書は大半がドイツ医学書の翻訳であったこと、当時ドイツ医学では基礎医学で破傷風菌、結核菌、淋菌、など世界的発見が相次ぎ発展していたこと、政府顧問だったフルベッキの勧めがあったこと、また日本とドイツは君主政体で新興国として国情・民族性に類似性があったことなどが挙げられる。我が国への導入以来、ドイツ医学を学んだ医学者の北里柴三郎博士、志賀潔博士、野口英世博士らが、細菌学や免疫学の基礎医学で世界的発見を成し遂げ、日本医学はわずか30年足らずで世界レベルに到達し発展した。ちなみにカルテ、クラウンケ、オペ、メスなどの用語もドイツ語由来。



▲「独医学導入に関する知安自筆書」(佐賀県立図書館蔵)

誕生!

相良知安を知る!!
公式ホームページ

子孫である相良隆弘さんの手により、相良知安の情報をまとめたホームページができました! 関連史料が見やすく整理され、その功績や生涯などが分かりやすく理解できる。



《http://sagarachian.jp》

《東京にも》

東大医学部に立つ記念碑

かつて校長を務めた東大医学部に立つ「相良知安先生記念碑」。長年人知れずひっそりと立っていたが、平成19年、附属病院玄関前の陽の当たる場所へ移転。今一度その功績が見直されている。

⑪ 東京都文京区本郷7丁目3-1



▲建設当時の写真(相良隆弘氏蔵)

はみだし情報 2011年の第28回日本医学史学会総会記念切手に、日本医学界に貢献した医学者として、杉田玄白やシーボルトらと並び、相良知安が採用された